

## 第29回4・9反核燃の日全国集会

# 1200名 怒りを込め青森市をデモ行進 青森の現状は何も変わっていない 国を批判

2014年4月5日 青森市青い森公園で「第29回4・9反核燃の日全国集会」に参加

4月5日、核燃料サイクル施設や原発建設に反対する「第29回4・9反核燃の日全国集会」が青森市・青い森公園で開かれ、青森県内をはじめ全国から1200名が結集しました。

全自交も青森地連を先頭に各地から参加しました。

集会では、全国実行委員会を代表し、原水禁事務局長の藤本さんが東京電力福島第一原発事故で帰還できない実態を暴露し、「原発をなくすことは一人一人の命の問題だ。社会を変えるまでともにガバロウ」と挨拶しました。



基調報告した原子力資料情報室の伴さんは「安全審査は基準を満たすかを見るだけで安全を判断する者ものではない。我々の判断が問われている」と、参加者に訴えました。

また、福島県平和フォーラムの半沢さんは「福島の実状は何も変わっていない」と述べ、国の対策を批判しました。

集会の最後に青森県平和労組議長で全自交青森地連書記長の江良實さんが音頭をとり、元気よく、怒りを込め「団結ガンバロウ」を全員で三唱し、集会を閉じました。

集会後、参加者は小雪舞う中、六ヶ所村の再処理工場の稼働阻止や原発建設反対を訴え、青森市中心部をデモ行進し、道行く市民に「核と人類は共存できない」「脱原発社会をつくろう」とシュプレヒコールで訴えました。